



漢詩人
佐藤知恭

佐藤知恭

佐藤知恭の墓（長谷寺：胎内市黒川）

佐藤知恭は、明治10年（1877年）に黒川町（現胎内市黒川）で生まれました。幼名は脩平といい、のちに知恭と改名、字は則寿、膽齋（たんさい）と号しました。

胎内市とのかかわりは、佐藤家が代々黒川藩（柳沢家）に仕えた家柄であり、祖父の代まで江戸詰で納戸役を務めていたことです。廃藩置県後の明治15年には、中条町に一家をあげて移住しました。

知恭は中条小学校を卒業後、中条町役場に勤務しました。のちに新潟北越学館に学び、知事官房に勤務し、知事勝間田稔の推挙で宮内省に転じます。明治36年には二松学舎に入学し漢籍を修めました。

明治38年には中国の武昌に赴き、その後京師大学堂（現北京大学）に学び、明治44年には陸軍少将に任じられます。中華民国大総統を務めた黎元洪の下で雑誌を主宰したり、辛亥革命時には孫文の依頼により革命の檄文をつくり、自ら兵を率いて天津へ行っています。

昭和5年（1930年）に外務省囑託となり大連に渡り、同七年、満州国成立とともに国务院に入ります。建国以来、皇帝御即位式の勅語、大号令はすべて知恭の手によってつくられました。

昭和19年7月20日、新京病院にて逝去されました。享年67才。郷里黒川の長谷寺に葬られています。



長谷寺